



JAPANESE A1 – HIGHER LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS A1 – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 1
JAPONÉS A1 – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 1

Monday 8 May 2000 (morning)

Lundi 8 mai 2000 (matin)

Lunes 8 de mayo del 2000 (mañana)

4 hours / 4 heures / 4 horas

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Section A: Write a commentary on one passage.
- Section B: Answer one essay question. Refer mainly to works studied in Part 3 (Groups of Works); references to other works are permissible but must not form the main body of your answer.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- Ne pas ouvrir cette épreuve avant d'y être autorisé.
- Section A : Écrire un commentaire sur un passage.
- Section B : Traiter un sujet de composition. Se référer principalement aux œuvres étudiées dans la troisième partie (Groupes d'œuvres) ; les références à d'autres œuvres sont permises mais ne doivent pas constituer l'essentiel de la réponse.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Sección A: Escriba un comentario sobre uno de los fragmentos.
- Sección B: Elija un tema de redacción. Su respuesta debe centrarse principalmente en las obras estudiadas para la Parte 3 (Grupos de obras); se permiten referencias a otras obras siempre que no formen la parte principal de la respuesta.

第一部

次の1 (a) の文章と (b) の詩のうち、どちらか一つを選んで解説しなさい。

(コメントリーを書きなさい。)

1 (a)

詩の翻訳は可能でしょうか。もちろん可能です。これは、なにも私が詩の翻訳をときどきやっているの、我田引水的にそういうものではありません。もしそれが不可能となれば、言語の普遍性はなく、ひいては言語そのもの、人間そのものがなくなってしまう。普遍性のない特殊性はありません。可能ではあるが、ただ、どのように翻訳したらよいかという問題がのこるだけです。

ヴァルター・ベンヤミンは『翻訳者の使命』というエッセーの中で、ゲーテのつぎの言葉を引用しています。

「わが国の翻訳は、その最良のものすら誤った原則から出発している。それはドイツ語をインド語化、ギリシャ語化、英語化するかわりに、インド語、ギリシャ語、英語をドイツ語化しようとする。それは外国語による作品の精神にたいしてよりも、自国語の慣用法にはるかに大きな畏敬をいんでいる。……翻訳者の原則上の誤謬は、自国語を外国語によって激しく揺り動かすかわりに、自国語の偶然的状態を墨守するところにある。……かれ (翻訳者) は自国語を外国語によって拡大しなければならない。どのような規模にまでそれが可能なのか、どの程度まで諸国語が変化しうるのか、どの程度まで国語と国語とがほとんど方言と方言との違いにすぎなくなるかは、だれにもわからないことである。ただしこれは、ひとびとが諸国語をあまりにも安易に考えるのではなく、充分に深刻にうけとめるものと仮定した上で言うのである。」 (田子修平氏訳)

詩もふくめて外国の文学を翻訳する場合の、これはたいへん重要な問題だと思います。上田敏の『海潮音』は見事なものです。ゲーテ式にいうならば、「外国語による作品の精神にたいしてよりも、自国語の慣用法にはるかに大きな畏敬をいんでいる」と言われぬこともありません。むしろ直訳体がよいのかもしれない。たとえばボードラーの

こころままなる人間は

とわにめずらむ大海を

とするよりも、ずばり

自由なる人間永遠に海を受す

としたほうが原詩の精神に近いような気がします。

すでに中国詩の翻訳において、われわれの先祖は、そのような読み方をしています。

別有天地非人間 (李白)

を「別ニ天地ノ人間ニアラザルアリ」というふうに移すならば平仄も脚韻も失われてしましますが、しかし原詩のおもかげは、かなりとどめているように思います。ヨーロッパ

パ語の詩も、この漢詩を読むように読むことも不可能ではありません。茅野蕭々^{いづ}先生の
 リルケの詩の訳は、かなりそれに近く、私は蕭々先生を範としているのです。原語は忘
 れましたが、少女たちをうたった詩を

花の咲いてる木々よりも

歌だけ余分に富んでいる

と訳されていますが、直訳体であって、ずいぶんたくみなものだと思います。

芭蕉の俳句など、どうしても外国語に訳されないと思います。というより、そこには
 日本人にしかわからないものがあると思いますが、それでも、とにかく訳すことは不可
 能ではありません。また、たとえばロシア人はロシア人で、プーシキンの詩は、とても
 外国語に訳されはしないと申します。しかし私たちは、それを日本語に訳し、人々に知
 らせ、みんなでよみ、それを理解することができるのです。

「詩は万人によって書かれなくてはならない。一人によってではなく」とロートレア
 モンは言いましたが、まったく、そのとおりだと思います。シュールレアリスムは言葉
 をせまい形式から解放しました。わが国には戦後、サークル詩の運動がさかんになり、
 多くの人々が詩作に参加しています。もう、むずかしい形式にとらわれることはありません。
 人は自分の詩をうたうたびに、新しい詩の形式をつくりだせばよいのです。従来
 のリズムを破壊するものも、またリズムなのです。

(長谷川四郎)

(注)

- ・長谷川四郎（一九〇九〜） 小説家。小説のほかに詩や戯曲、翻訳も多く手掛ける。
 本文は『知恵の悲しみ』によった。
- ・ヴァルター・ベンヤミン Walter Benjamin（一八九二―一九四〇） ドイツの哲学者。
- ・上田敏（一八七四―一九一六） 明治期の文学者。
- ・茅野蕭々（一八八三―一九四六） ドイツ文学者。

1 (b)

鳥 (bird)

バイ バイ ブラックバード
 数百の鳥 数千の鳥 が飛びだっていく
 のではない いつも飛びだつのは一羽の鳥だ
 わたしの中から
 5 わたしのみにくい内臓をぶらさげて
 鳥
 わたしは おまえをみこもるたびに
 目がつぶれる 盲目の中で世界を
 臭いで生きる
 10 おまえを失う時 はじめてわたしはおまえをみる
 が その時 わたしの今までは死に
 新しい盲目の生がうごめきはじめる

 バイ バイ ブラックバード と舞台上で
 彼は きわめて一羽の鳥になって唄い
 15 聴衆は幾万もの耳になって 彼の鳥を追う

 その時 聴衆は盲目の幾百万の羽だ
 観ることのできない聴衆がそれぞれの
 羽をはばかせて鳥の亡霊になり
 あの舞台の一羽の声を追いながら 暗い客席
 20 を舞うのだ
 だが誰かにわかるか どれが亡霊でなく
 ほんとの鳥か また
 バイ バイ ブラックバード
 ほんとに ここから飛び去っていくのは
 25 なにものか
 唄っている彼にもわからない 只 彼は夢中
 で唄っている そして感じるのだ
 なにかが飛び去っていく今 それは確かだと
 それは彼のすべっこい時であるかも知れぬ
 30 彼の魂のこくやわらかなロースのどこかも
 知れぬ また うしろめたい罪の星の記憶
 かも知れぬ また一番前にすわっている子の
 チューリップ型の脳髓から飛び散る なま
 あたたかい血であるかも知れぬ
 35 バイ バイ ブラックバード
 わたしは鳥である

わたしが わたしを拒否しようと
 おかえようと
 このついはむことをやめないトガツタ^{くさ}嘴と
 40 はばたく習性をもつ羽を
 わたしからもきとることができない限りは
 わたしは 今日 鳥である
 わたしは折りになり 日に数回 空につきさ
 45 さり 空から突きおとされて墜ちてくる鳥
 また 墜ちてくる鳥をかかえる内臓だ
 わたしの中には これら墜ちてきた巨大な鳥
 小さな鳥 やせてひねた鳥から 傲慢で
 やさしい鳥まで
 あるものは半ば生きてうめきながらいる
 50 わたしは日課のようにこれらの鳥を鳥葬にする
 一方
 日課のように未来の鳥たちの卵をあたためる
 わたしは未来を喰い破る奇怪な鳥の卵ほど
 55 いとおしんで必死にあたためる
 バイ バイ ブラックバード
 わたしは奇怪な鳥になって
 わたしを喰い破るあいつを一度飛びたたせよう
 60 と思っている ほんとに

 血がぶきでるほど あいつを飛びたたせなく
 ては
 バイ バイ ブラックバードを
 粹に 唄ってやりながら

(白石かずこ)

(注)

白石かずこ (一九三一〜) 詩人。カナダ、
 バンクーバー生れ。ジャズ感覚を取り入れ、人
 間的自由を歌う詩人としても知られている。詩
 集に『聖なる淫者の季節』『一艘のカヌー宇宙
 へ戻る』『砂族』などがある。

第二部

授業で学習した部門(Part 3)から、(a)(b)の問題のうち一つを選んで、エッセイを書きなさい。エッセイを書くにあたっては、必ずPart 3で学習した文学作品二つに言及すること。なお、この二作品のほか、他の作品について述べてもよい。

2. 美の探求

- (a) あなたの読んだ作品の中には、伝統的な日本の美意識（例えば、もののあはれ・幽玄など）が見られますか。それらは作品の中でどのような効果を与えていますか。伝統的な美意識が見られない場合はどのような美が描かれていますか。あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) あなたの読んだ作品の中では、美を表現する方法に何か共通点があるでしょうか。共通点が見いだせない場合には相違点について論じなさい。

3. 社会と個人

- (a) 社会の要求するさまざまな規範きはんとそれに対する一人の人間としての抵抗というテーマを、作者はどのように扱っていますか。作者の手法とその効果について、あなたの考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) 人間は個人として自由に生きたいと願い、また同時にある集団に帰属したいと願う矛盾した面があると言われます。あなたの読んだ作品の中で、この問題はどのように扱われていますか。考えるところを述べなさい。

4. 自然と人生

- (a) あなたの読んだ作品において、自然／人生／旅などについて作者はどのように考えていますか。作者たちの考え方には共通するところがありますか。共通点が見いだせない場合は相違点について、例をあげて考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) 作者は作品の中に時間や空間を設定しますが、その設定の仕方は作品に大きな影響を与えると考えられています。時間や空間がどのように作品を決定するか、例をあげてあなたの考えるところを述べなさい。

5. 家族

- (a) 子供の時の家庭環境が、その人のその後の人生に与える影響について、あなたの読んだ作品から例をあげ、考えるところを述べなさい。

あるいは

- (b) 「人はどのように生きているか」ということと、「人はいかに生きるべきか」という命題との関係はどのように描かれていますか。あなたの読んだ作品から例をあげて、考えるところを述べなさい。

6. 愛と友情

- (a) 愛あるいは友情についてのテーマを掘り下げるために、作者が用いている方法や構成、文体上の工夫などを比較し、具体的に例をあげて論じなさい。

あるいは

- (b) あなたが読んだ作品において、作品の結末の部分がテーマとの関係で、どのような効果を生み出しているかを比較・検討し、あなたの考えるところを述べなさい。